

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170100657		
法人名	有限会社 ホットライフ		
事業所名	グループホーム ホットライフ		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町大字森田82番地20 (電 話) 0952-31-4605		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19年10月9日	評価確定日	平成 19年12月10日

## 【情報提供票より】(平成19年8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨造り		
	2 階建ての	1階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6500~8000 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

### (4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 名	女性 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 63 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡病院、北川歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に囲まれた交通量の多い商業エリアに立地するホームであったが、鍵はかけず開放的であり、近接の企業等とも関わりがみられた。職員の意識も高く、入居者一人ひとりを尊重したケアを心がけ、実践されていた。一階・二階の2ユニットであるが、それぞれ独自に運営されており、居室のドアの暖簾や調度品、共有空間の配置等、ユニークな特色がみられた。普段の生活を大切にし、月一回の夕食や日帰り温泉旅行といった生活の連続性を大切にされていた。また、系列病院が近くにあり、緊急時の対応も密にできるような体制作りがなされていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善点として地域との連携が挙げられており、その後の取り組みとして、地域での行事等についての情報収集、働きかけが行われていた。しかし、運営推進会議が未開催であり改善できていない点もみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の自己評価及び外部評価に基づき、管理者・職員間での会議を行ない、意識を統一し改善事項に取り組んでいる。適宜、管理者や職員と相談を行ない、サービスの質の向上に努めていた。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自己評価等で明らかになった課題については、管理者・職員間での会議にて問題解決に向けての取り組みがなされていたが、地域住民や市担当者との関わりや運営推進会議については、不十分な点がみられた。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月一回の定期連絡や家族の訪問の際に意見を伺う等、家族の意見や要望を積極的に取り入れる工夫が行なわれていた。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接のデイサービス事業所への関わりや、小学校の運動会、地区の文化祭・バザー等に参加したり、地域でのイベント等に参加できるかどうかの情報収集を行っていた。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者だけでなく職員も仲良く地域の中で暮らしていけるような取り組みが行われており、喜怒哀楽を共にする姿勢がみられた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念である「みんなで仲良く」ということを念頭に、楽しいことがあれば、入居者と一緒に取り組まれており、職員間でも楽しく過ごせるように工夫してあった。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣のデイサービス利用者との関わりをもたれ、小学校の運動会、地区の文化祭・バザー等に参加したり、地域でのイベント等に参加できないか情報収集を行っていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の自己評価及び外部評価に基づき、管理者・職員間での会議を行ない、意識を統一し改善事項に取り組まれていた。適宜、管理者や職員と相談を行ない、サービスの質の向上に努めていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は検討していたが、未開催の状況であった。	○	地域住民や市との関わりも深めていけるように、運営推進会議の開催を期待する。その開催・運営にあたって市担当者からアドバイスをもらったり、地域住民へ情報提供を行なう等し、サービスの質の向上につなげていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へは、必要時にしか管理者が連絡を行えていなかった。	○	市への確認事項以外にも、ホームの情報を提供し実情・課題を把握してもらおう等、市担当者とともに課題解決にむけた協働体制を作ることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の定期報告の際に、職員による生活状況をまとめた手紙とホーム便りを同封している。また、個々の状況に応じて電話連絡などを行っていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に要望等があれば聞いている他、意見箱を設置する等、何でも意見や要望が言えるような雰囲気であった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はなく、馴染みの職員による支援が受けられるように配慮が行なわれていた。また、離職者や新職員の受け入れに対しては既存スタッフがフォローを行ない、入居者の混乱がないような対応がされていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修へ行ける機会の確保が行われていた。また、新職員に対してもホーム内での実践を通して、アドバイスをを行う等の取り組みが行われていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会や近隣のデイサービスでの交流が行われているが、同業者とは職員個々のつながりの中での交流であり、施設全体でのつながりとはなっていないかった。	○	職員個々でのつながりを拡大し、地域のグループホームのネットワーク作りが期待される。また、そのネットワークづくりの中で、サービスの質の向上を図られることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの暮らしを尊重し、入居者のペースに応じた生活ができるように、家族からの情報収集を行っていた。また、入居時には家族に宿泊してもらう等、落ち着いて入居できるような取り組みが行われていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者をお客様扱いせず、入居者にできることがあればしてもらい、また、入居者から教えてもらったり、支えあう関係を築けるような取り組みが行われていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、入居者の意向を把握できるようにされていた。また、今までの生活歴等を家族から情報収集し、できる限り本人本位で生活できるようにスタッフ間でも検討していた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護サービス計画を作成するにあたって、入居者に必要なケアであるか、また実践できるかを全職員で相談・修正を行っていたが、入居者・家族の意向を反映させるような取り組みがなされていなかった。	○	介護計画作成においては、本人や家族を含めた話し合いを行い、意向を記録にとどめ、介護計画に反映していく事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間の終了時に定期的なケアカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画の見直しが行なわれていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望に応じて、ホームへの宿泊や今まで利用していた美容院への付き添い等、個々の生活へ対応できるような取り組みを行っていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の対応も含めて、月一回程度、近隣のかかりつけ医に受診してもらっている。また、要望があれば、専門医への定期受診を行なう等、適切な医療を受けられるような支援を行っていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期においては、家族や医師との話し合いを通じて対応されていたが、重度化した場合や終末期のあり方についての指針が作成されていなかった。	○	入居時等に、重度化、終末期に対するホームとしての取り組みを共有することができる指針等を作成することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの空間を大切にしながら、プライバシーに配慮したケアを行っていた。また記録についても個人情報の保護に配慮した取り扱いを行っていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを尊重するとともに、その日の希望や状況に応じた生活ができるような支援を行っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等、入居者に応じた役割があり、職員と一緒に食事を楽しんで行えるような取り組みがなされていた。また、近隣のスーパーの協力を得て、入居者と一緒に食材等の買い物ができるような工夫がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるように準備しており、入居者の希望に応じ、楽しんで入浴できるような配慮がなされていた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりに応じた役割、楽しみごとが準備しており、日々の生活に張り合いをもって過ごせるような支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やゴミ捨て、月一回の外出等といったホーム内だけでなく、入居者の希望や状況に応じて、日常的な外出ができるような取り組みがなされていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずにすむように職員が入居者の見守りをしており、夜間や外出以外は鍵をかけないという取り組みが行われていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施する等、防災意識を高める為の取り組みを行っており、また隣接の事業所等と連絡ができるような体制づくりがなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録し、特に医師の指示がある場合には、個別に対応する等の取り組みがなされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状況に応じてテーブルやソファを準備したり、季節の花を飾ったり、装飾を変える等、居心地よく生活できるような取り組みがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた家具を使用しており、部屋の配置も入居者本人や家族と相談しながら決める等、入居者が居心地よく過ごせるような工夫がなされていた。		